

ロシアの抒情・パリのエスプリ

ザツキン展

'90年2月10日[土] — 3月18日[日]

開館 午前9時〜午後5時(2月10日は午前10時開展、金曜日は午後7時まで) 月曜日は休館
但し2月12日月開館、13日火休館
入場料 一般9000円 大・高生6000円 小・中生3000円 前売り・団体20名以上は2割引



高松市美術館

高松市紺屋町10-4 TEL.0878(23)1711

主催 高松市美術館・パリの立サツキ美術館 読売新聞大阪本社・美術館連絡協議会・西日本放送 後援 文化庁・フランス大使館 協賛 花王株式会社 協力 株式会社カワ画廊

破壊された都市 (1951)



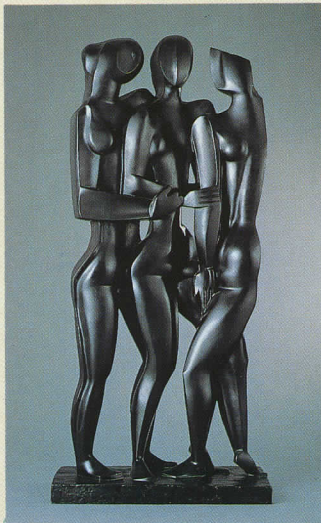
扇を持つ女(1925)



メランコリー(1927)



放蕩息子の帰還(1952)



三美神(大)(1953)



人間の森(1957)



ゴッホ記念像(1956)

〈ロシアの抒情・パリのエスプリ〉

ザッキン展

フランスの代表的彫刻家のひとりであるオシップ・ザッキン(1890~1967)は、キュビズム(立体派)やアフリカ原始彫刻の影響を受けつつ、自らのロシア生まれの幻想的で抒情的な気質をもとに深い精神性と堅牢な造形性をもつ表現を生み出しました。そこには現代に生きる人間の喜びや苦悩が激しく大胆に表現されています。

キュビズムの影響による大胆な面の分割と単純な形態で表現した「扇をもつ女」、凹面の女の顔と体に貼りついた腕が印象的な「メランコリー」、また代表作となったロッテルダムの「破壊された都市のための記念碑」のマケット(雛型)、そして最後の大作「ゴッホ記念像」などがこの展覧会の見どころです。重厚素朴な形態のうちに抒情性を秘めたザッキンの彫刻は、不可思議であやしい魅力を放ちつづけています。

講演会

『森を愛した彫刻家 ザッキン』

2月18日(日)午後1時30分より

講師/保田春彦(武蔵野美術大学教授)

会場/美術館講堂(入場無料)